

KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000

Kodak LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

熱海紀行

特別  
ル4  
3523  
1





門 几 4  
號 3523  
卷 1

熱海紀行

余去歲春正月。忽患左半身  
不遂。荏苒不愈。再易星霜。氣  
倦體疲。百事衰憊。今年暮春。  
恭賜官暇。赴豆州熱海之  
溫泉。孟夏十六日。既促其行。  
雞鳴乃出郭門。槐夏風清。交

昭和十六年二月十八日寄  
市島謙吉贈

秋日長。停午憇神奈川。向暮  
次十塚。十七日天陰。憇大磯。  
宿小田原。十八日未明發小  
田原。此驛左有路。乃行熱海  
之道也。度根府川之關。過土  
肥之邑。其行七里。蹈險沿海。  
薄暮始至泉土。天熱海鄉者。

屬豆州賀茂郡。此土有溫泉。  
石竅之大。將數十步。其泉所  
出。不可測焉。其溢出也。晝夜  
不別。時刻不差。其沸也者。如  
雲如烟。若龍躍。若雷怒。鳥墜  
輒死。獸入直爛。家々以笕引  
浴室。溫涼各適。所其好。主治

能。否。陳。藏。器。本。草。說。之。也。詳。  
矣。原。夫。溫。泉。之。出。莫。知。其。初。  
居。民。相。傳。助。于。天。平。勝。寶。元。  
年。我。國。大。已。貴。命。始。識。溫。  
泉。之。療。病。而。使。蒼。生。浴。焉。云。  
此。地。昔。山。臨。海。草。木。美。而。魚。  
介。多。冬。暖。而。不。憂。至。寒。之。悽。

愴。夏。涼。而。不。苦。盛。暑。之。鬱。燠。  
可。謂。佳。境。也。連。浴。二。七。手。足。  
稍。便。而。覺。太。効。驗。是。以。天。快。  
晴。則。或。曳。筇。或。命。駕。望。勝。境。  
慰。病。情。焉。此。鄉。良。岳。有。湯。前。  
權。現。本。社。之。後。松。山。之。麓。有。  
野。中。湯。其。他。處。々。出。溫。泉。東。

北行半里。有走湯權現社。青  
巖苔滑。松杪蒼鬱。本社後有  
椰木。乃稱神木也。雷電權現  
前有森。乃兒呼入森也。下峻  
阪八町許。其中間。右鐘樓堂。  
左下之宮。宮之麓傍海岸。有  
瀧。湯。飛流靈液。穿石竇而出。

是乃走湯也。小田原路。東谷  
之邊。有鳴澤。伊豆高嶺。伊豆  
御山。呈勝致奇。應接不暇。西  
北上。翠微。有來宮明神。林樹  
繁茂。福石卧側。宮川夾路。水  
石磷々。神祠蕭然。此地有楠  
木。其高數丈。其大十二圍余。

其内<sup>テシラメ</sup>朽納<sup>イム</sup>三十六人。其餘二  
木。最<sup>モ</sup>巨<sup>キ</sup>最高<sup>ク</sup>。其氣芬芳。大可<sup>ナリ</sup>  
人<sup>ノ</sup>觀<sup>ム</sup>也。就<sup>ソコニ</sup>此社神門右。則三  
島金山有<sup>リ</sup>岐。行<sup>ク</sup>十町許。有<sup>リ</sup>土  
澤。地藏過<sup>リ</sup>杓尾阪中之平。矯<sup>テ</sup>  
首<sup>ヲ</sup>觀<sup>ム</sup>之。右有<sup>リ</sup>岩戶嶽。相模山。  
左有<sup>リ</sup>姬之尾。天城山。峒口噴<sup>ク</sup>

雲<sup>ヲ</sup>奇<sup>ク</sup>峯<sup>ト</sup>恣<sup>ニ</sup>生<sup>ス</sup>。登<sup>ル</sup>五十町。漸<sup>ニ</sup>至<sup>ル</sup>  
金山<sup>ノ</sup>嶺<sup>ノ</sup>山<sup>ノ</sup>上<sup>ニ</sup>有<sup>リ</sup>地藏堂。角仙  
堂。過<sup>リ</sup>其後登<sup>ル</sup>四五町。至于<sup>テ</sup>丸  
山。薄<sup>シク</sup>言<sup>フ</sup>。驢<sup>ト</sup>籃<sup>ト</sup>輿<sup>ト</sup>。雲<sup>ノ</sup>暗<sup>ク</sup>霧<sup>ノ</sup>散<sup>ル</sup>。四  
望<sup>ス</sup>喜<sup>ム</sup>日。三<sup>ノ</sup>崑<sup>ノ</sup>當<sup>ノ</sup>兌<sup>ノ</sup>。三<sup>ノ</sup>德<sup>ノ</sup>丁<sup>ノ</sup>坤<sup>ノ</sup>。  
仰<sup>テ</sup>觀<sup>ム</sup>士<sup>ノ</sup>峯<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>雪<sup>ノ</sup>。俯<sup>テ</sup>察<sup>ム</sup>東<sup>ノ</sup>海<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>  
驛<sup>ノ</sup>。凡<sup>テ</sup>八<sup>ノ</sup>九<sup>ノ</sup>州<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>勝<sup>ノ</sup>。槩<sup>ト</sup>來<sup>テ</sup>供<sup>ス</sup>奇<sup>ク</sup>

於前。唯非假陶謝手。誰模寫  
萬分之一。茲泛扁舟而遊於  
網代。此土多漁家。市舶輻輳。  
此日也。風靜波穩而行。海二  
里。和田。那須。浦。釜。根。錦。浦。而  
或。事。黑。白。碁。盤。石。織。蜀。紅。錦。  
岩。窟。誰。脫。焉。帽子石。怪哉觀

音。淨。土。日。本。孰。造。唐。橋。波。上  
何。見。花。畑。歌。樂。忽。逢。舞。臺。根。  
蟠。根。直。見。地。腹。松。顧。默。止。常  
閑。根。羨。寂。然。不。動。瀆。其。餘。雅  
趣。不。可。勝。計。也。余。所。寓。主。人。  
曰。今。井。古。徑。一。見。如。舊。識。亭  
有。一。碧。樓。竹。洞。翁。所。名。取。之。



岳陽樓記。向諷訪備牧。就所  
見選八景。因作洞作詩記之。  
爾來浴湯之人。無貴無賤。登  
此樓賦詩詠歌。積滿卷軸。今  
登此樓。則滄海接天。一碧萬  
頃。日出東。渤煙連孤村。浪浮  
翠嵐。風帶潮聲。孤帆千里。沙

鷗數點。釣叟延蜚人。無鉤沒酒。  
初島在屋前。青嶂在屋後。鳥  
嘯綠陰。鐘響客枕。山徑樵歌。  
林間牧笛。寂々盈耳。山海相  
遠。而聚勝斯樓。蓋天地造化。  
自然極工。一國英靈。競鍾茲  
倚歟。勝地養氣。神井洗疴。古

人有言曰。恬憺虛無。乃能行  
氣。又曰。水者氣之子。氣者水  
之母。氣行則水行。氣滯則水  
滯。又曰。血由氣生。氣由神全。  
吾聞其語矣。今浴其湯矣。於  
是乎。沈疴脫焉。不覺二豎去。  
將歸。東都因題數語。元文

四年。芒種中浣。何及田伯元。  
記于熱海旅館。

寓一碧樓

題溫泉

奇哉熱海別坤乾

一碧樓中詩數聯

惟見溫濤長涌地  
却疑雲霧遠連天  
千尋孤島意難盡  
萬里鯨波氣浩然  
魚躍鳥啼無外事  
三周投浴沈痾痊

遊清水山溫泉

寺賦三點井

清水山門觀海水  
溫泉寺閣對溫泉  
絲川三點井俱潔  
總滌世塵暗裡牽

遊和田真禪寺即景

遊歷真禪寺 和田一路通

古松烟水外 漁艇浪華中

滄海環如月 青山勢似子

終朝人不見 歸鳥興無窮

登日金山之四字出

句頭作

登九折岩壑 日晴天地寬

金峯臨碧海 山景極遊觀

初島

波乃石沖の小舟を物々小

人好しそあゝみ伴夏乃海了

大島

休夏乃海也... 止之者...

兎呼入表

休夏乃海也... 止之者...

走湯

走湯

鳴澤

鳴澤

鳴澤

鳴澤

鳴澤

鳴澤



うらけ郷乃人といふ及りゆあ  
いり人皆神詣を好し深湯お懸  
衆病快験をいのみ奉りあ  
いり人いりよありぬ淑子醫れ祖神  
あまも内毛有ぬいり思ひやつ小  
え先は神行ゆりてぬ石乃り  
わあま久留来大之病年愈れ奇

進なりといつ石乃陽を乃かき  
本之おぬま社民まぬく子孫とゆ  
神破少之病快復の鑄馬教も  
この為並ゆ

神も皆いのちとみり  
かちりてゆ乃きりひやあ  
それ石乃起さるり年又此

又とけふより流きを風来えんとい  
きとけふより早苗とらをえたりめ  
ゆふが秋乃女のこゑのあておし  
ふらふれはふらふらてあておし

来乃又の神を大已貴命とて和同  
二年六月十日に西へ来たりて神ひ

也のこゝに捕神来りてとて七なり有  
らるる女貴命を和のゆりせん言ひを  
けりて今をそとて女貴命とてあておし  
悲愴とてとて海とてあておし  
例乃のあておしとてとて女貴命 國神代れ  
ソヤ  
大已貴命ヲホアチムチノミコト與少彦名命トスクナヒコノミコト  
戮アハセ力ツ一心ヒトツミシラフ經營ツクル天下アメカシカラ復タ為ニ顯見ウツレキ





秋を治る神をめぐりて一うの神  
起乃美川よりうらみらる

和国破るといふ海思ふは情乃まあり  
いとくろくへゆつて

浪風を治る所代をあつてさう  
ハもこれ神乃力なりとよや

赤母根とよよよりて聖廟をた  
うと奉りて小社設け神宿る神揚  
市高よのよそく傳り

くみくや宮ふほく一此文長く  
神天りて世々あつてまきまき

むし深殿后の可なりとよや

しふ劫乃をいしと悉くふたり  
まーけるあやけ松ま衣のこふ斗  
枝ゆり葉足あると好んゆふより  
都松と名付ゆくと又深殿衣れ  
叢社とつと劫松を極く今をその  
名乃とより

ふとせとや松を妙記して極て

地の名斗を今を極せ

樹本紙僧正乃まといふとこのまれが  
と里大ねの権の古本をせむじう僧正  
三つこの極あしと里民をさう僧正  
ゆふより妙記のまといふとこのま  
へゆ

梅のりきと〜ぬきぬ玉の記れ  
り〜と推乃木〜小のま

目之松乃ぬふと〜くのがきき  
風光一暇の中ふぬく洞窟西  
湖と〜と〜ぬ〜ゆ〜と〜けぬよと  
富士をとら〜

物乃根やい〜とぬきぬ玉の記れ  
ぬきぬ玉の記れ

梅葉をぬきぬ玉の記れ  
と〜と〜と〜

梅乃ぬきぬ玉の記れ  
ぬきぬ玉の記れ

い〜と〜と〜 形白

いろねをけりもあきかたをこころまめて  
たふらふくくくくくくくくくく

あまの記やま 形白

はらふをゆふくくくくくくくくくく  
やまのがくもゆのあつらひ

あふららのくくく細代入り

あつと怪松壽石松とくくく遠化  
乃天工いつきの人の筆を揮死云  
あをつらんくくく神、浦とくく  
あつてくくくくく

あふらくくくくくくくくくく  
神あやまら流乃白くく

あゝとあゝと強よりのよりの

ちやあまのまのまのまのまの玉の珠れ

ふく記さやのいそゆきさそ

熱海をまよあまんと

縁衣あそや 宿を物さるる

いほの山れ名海をうねる

あやまひ夜さうけいあま

ゆきんととも物

あふと記さるあまのつるあつあれ

いとゆき乃りあまふさるん

浴湯之間。綴句題十五  
首和歌。以慰病情。併附

焉

藤可述

雲霞出海曙

やまはなを波ふたふたのしるし  
このしるしを春乃海つら

春寒花較遅

いつか花待春を風吹くまで  
海へ望むとぞ猶も母を

黄鳥 挾書 眠

思ひ好みまことりりて  
思ふもあはれむるは

春江花月夜

嘆くつら花乃と書る時記に

えまといひてぬ春の糸は月

新樹葉成陰

又春の花をいつと友あそ

ふらむつと流るる音に記

荷清納涼時

とらと草花清涼を露ふつ

とらと涼に記ゆ乃とて

簾跡片到床

夜あきて団み影しくふとのひら  
毛里くる水はれ月乃きりし後  
見雁思郷信

ゆきよとてこころ海かたむき  
りしもえりぬのこもるむつ

雞聲茅店月

行や此をのハし鳥を乃こ此水れ  
月をゆり入つや、水宿を

落葉滿空山

空人そふやまゆらんあしゆ  
山はよつらふ木くろあき

人跡板橋霜

山のつづあはれふりけて以人き



初月をひらきぬるを乃板付  
庭空鳥雀喧なみ

つらつらむきこえてはくもそ  
よのよとつとてとくもそ  
蓬聲夜雨船

沿風を船り多き舟の角  
さゆりちきと起るを旗はた

聞き猿さる積たまり涙なみだ痕あと

海うみ良よ心こころおどく時ときいよとく  
山やま分ぶん衣い袖そでをぬきおとす

深ふか山やま何なに處ところ鐘かね

空そら峯かみ定さだふ入いれ山やま女むすめ川がはを  
おとすもとくぬ境さかいを

え文巴来のりたふさつち中のりも  
熱海乃旅宿ありり志をいさふ

田中伯元書焉





